

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

名前 竹田 育広

作成日 2020年3月31日

【責任】

観光マネジメント学科に所属し、専門科目である観光・サービスビジネス、マーケティングを中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は観光およびマーケティング関連の専門科目（観光マネジメント、観光市場の動向と展望、商品企画論）の担当、専門ゼミナール（2, 3年生）、および初年次教育科目の社会力基礎演習1・2、および当該科目に関するコーディネーター、学生の学生生活・キャリア支援である。

【理念】

学生には、①主体的に学ぶ、②本質を追求する、③現場から学ぶことの重要性を理解してもらいたい。観光・サービスの商品は、生産と消費が同時に起こる特性を持つことから、「真実の瞬間」と表現されるように現場で起こっていることから様々な気づきが得られる。その気づきを自らの頭で考え、時には現場で働く方々からのリアルな声を聞き、本質へと追求していくことが重要である。つまり、観光・サービスの学びには「現場回帰の発想」が基本となる。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、①学生自身が勉強したと実感できる内容とわかりやすく、見やすい配布資料を提供する、②専門的知識とともに、教師自らが調査した現場のリアルをわかりやすい形で提供する、③学生自身が①と②を実践できるような環境づくりをするという方針で教育をしている。

①学生自身が勉強したと実感できる内容とわかりやすく、見やすい配布資料を提供する
*学生との接点である授業・ゼミでは、学生が理解しやすい、見やすい配布資料の作成を行っている。ペーパーレス化に逆行するようだが、紙のプリントを配布し、学生が復習、自学自習できるように十分な余白を設けている。軒並み、学生からは「見やすく、後で見たときにもわかりやすい」と好評である。

*授業テーマ、キーワードに関連する原典を紹介し、背景にある概念や起源といった本質に迫る内容を紹介している。

②専門的知識とともに、教師自らが調査した現場のリアルをわかりやすい形で提供する

教師自身が楽しく研究している姿を見せることが重要との認識に基づいて、教師自身が自ら調査した事例を写真や動画、聞き取ったエピソードを中心に紹介し、それらの内容に隠れている本質的課題に迫り、学生自身、または小グループで考える時間を設けている。

③学生自身が主体的にかつ意欲的に学ぶ環境づくりをする

*授業の定刻スタートを遵守する。

*学生への問いかけをし、積極的な発言を促し、発言した学生には出席票とは別のカードを配布。学生の意欲を評価している。

*学生の理解度を把握する、学生とのコミュニケーション手段、学生の復習の機会として、担当科目すべてで「コメントカード」の課題を課している。毎回の授業終了後に、グループクラスルームに提示し、2日間の間に学生自身が各回の授業を振り返り、回答作成を行う。提出状況、内容を成績に加点評価している。

【評価・成果】

*担当する社会力基礎演習のクラスでは、授業満足度評価が高かったこと、およびクラスから6名の学生が来年度からSAとして活動する。

*12名のゼミ学生がキャリアセンター主催の就活バスツアーに参加、5名のゼミ学生が夏季休暇中にキャリアインターンシップに参加、単位修得し、いずれもキャリア形成に対する高い意欲の表れが見られた。

*本学と地域連携している福井県美浜町の地域課題に対する提言を行うため、ゼミ生10名が美浜町をフィールドワークし、その成果をレポートにまとめ、美浜町へ提言を行った。

【目標】

*より現場を知るため学外からのアドバイザーを招聘する。(2020年度)

*イメージしやすいコンテンツを「ビジュアル、書く、考える」の方法で教育指導する。